## 近江八景（大江敬香）

堅田の　落雁　比良の　雪
湖上の　風光　此の　処に　収まる
煙は　帰帆を　罩む　矢橋の　渡
風は　嵐翠を　吹く　粟津の　洲
夜は　寒し　唐崎　松間の　雨
月は　冷かなり　石山　堂外の　秋
三井の　晩鐘　瀬田の　夕
征人　容易に　郷愁を　惹く

堅田落雁比良雪　湖上風光此處収
煙罩歸帆矢走渡　風吹嵐翠粟津洲
夜寒唐崎松閒雨　月冷石山堂外秋
三井晩鐘瀬田夕　征人容易惹郷愁

**解説**　広重の名所絵画・近江八景に題して、その八景の美景をたたえたもの。

**語釈**　※堅田＝今の滋賀県堅田町。※落雁＝空から地上に舞い降りてくる雁の群。※風光＝風景・風色。ながめ。※煙軍…煙は霧・霞・靄など。「軍」は覆い包むこと。※帰帆＝帰途につく船。※矢走＝滋賀県章津市矢橋町。※嵐翠＝風にみどりの樹木がなびく景観をいっている。※粟津＝木曽義仲が源義経に首級をあげられた所。滋賀県大津市粟津。※唐崎＝大津市の湖岸にある。※石山…西国十三番の札所で月の名所石山寺がある。瀬田川の右岸の地。※三井＝寺名。※晩鐘＝入相の鐘。夕刻につく吊鐘の音。※征人＝旅人。遊子。※郷愁…他郷にあって故郷を懐かしむ気持ち。

**通釈**　近江の国の琵琶湖の畔、堅田に降りる雁の影、比良山をおおう雪の夕景、湖上の素晴らしい風光は、皆この辺りに収まっている。夕靄が帰り船を包む矢橋の渡し場、風が翠嵐をなびかせている粟津の砂浜、夜、寒々と雨に濡れている唐崎の松の辺り、月が冴えて美しい石山寺の秋の月景色、遠く響いていく三井寺の晩鐘、瀬田の夕照など、皆それぞれに風光の美を誇っている。この辺りを訪れた旅人は、ともすれば故郷をなつかしむ情にかられるのであろう。